

日本製紙グループは世界の人々の豊かな暮らしと文化の発展に貢献します

木とともに未来を拓く総合バイオマス企業として持続可能なビジネスモデルを発展させていきます

日本製紙グループのアイデンティティは「木とともに」あることです。当社グループは長年にわたって紙の原料となる木を育み、その森林資源を活用した多彩な製品・サービスを提供することで、暮らしや文化の発展に貢献してきました。健全な森林経営の実践とそこから産出される木材を余すことなく活用するさまざまな事業は、地球温暖化や資源枯渇の防止などの社会的な課題の解決に結び付くという側面も有しており、持続可能な社会の構築に貢献しています。

具体的には、当社グループは、国内社有林と海外植林地を合わせて、東京都の面積に匹敵する20.4万ヘクタールの森林を育成・管理しており、持続的な森林経営を通じて森林の生態系、生物多様性も保全しています。森林の樹木はCO₂を吸収固定し、木材となっても固定したままです。そのため木質資源の活用は地球温暖化の防止にも役立ちます。また、パルプの製造工程で副生される黒液と呼ばれる木質バイオマスや建築廃材を燃料として利用したり、紙製品を再利用したりするなど、資源を余すところなく利用、リサイクルして、資源の枯渇防止に貢献しています。

つまり、総合バイオマス企業として当社グループのビジネスモデルは、持続性という特徴を持つ資産、資源を効果的に活用しながら社会の発展に寄与する持続可能なものであり、これからも未来に向けて再生可能な森林資源の価値最大化を目指していく所存です。

「木」の素材としての多様性を活かしながら成長分野、新規分野の伸長、創出に取り組めます

紙の原料である「木」は、素材としての多様性に特徴があります。再生可能な森林資源を使いながら「総合バイオマス企業」として多様なバランスの取れた事業群を構成できることは日本製紙グループの大きなアドバンテージです。“紙は文化のバロメーター”といわれてきたように、紙づくりを通じた

文化への貢献は当社グループのベースとなっています。また、木材を高度利用する技術を駆使し、エネルギー、ヘルスケア、バイオケミカル、パッケージと「より豊かな暮らし」を支える事業を展開しています。現在は、次世代の素材として期待されるセルロースナノファイバーについて用途開発を強化しており、実用化第1号となる消臭機能を付与した大人用おむつを2015年秋に発売する予定です。

当社グループは、これらの展開を織り込み、総合バイオマス企業として成長・発展していくための「第5次中期経営計画（2015～2017年度）」を策定しました。国内外の洋紙・板紙事業の収益力強化を土台に、事業構造の転換により今後成長が見込まれる分野を伸長・創出する方策を定め、その達成に取り組んでまいります。

ステークホルダーの皆さまと対話を重ねながら、より広い視野を持って持続可能な社会の構築に貢献していきます

日本製紙グループは、広大な森林を育成・管理し、大規模な生産拠点を持つため、その地域と働く人たちに大きな影響力があります。従って、地域との共生は、当社グループの持続性にとって不可欠です。また、ステークホルダーの皆さまからのご意見は、地域と共生し持続可能な成長をしていくための課題への気付きの機会になります。例えば、地域と共生していく上で環境への配慮は不可欠ですが、地域やお客さまとコミュニケーションを取りながら、日々の操業、製品開発や、中期的な環境行動計画に当社グループへの期待や要請を反映させて、調達、生産、輸送、製品、リサイクルの各バリューチェーンで実効性の高い環境対応を実施しています。これは、グループ企業の環境経営の原則となる日本製紙グループ環境憲章の実践であり、今後も着実に推進していきます。また、投資家の方々との対話でも長期的な株式価値の向上に向けた意見を得られる貴重な機会です。

世界規模で深刻化するさまざまな社会的課題に対しては、

企業グループ理念

理念 Mission

日本製紙グループは世界の人々の豊かな暮らしと文化の発展に貢献します

目指す企業像 Vision

以下の要件を満たす、社会から永続的に必要とされる企業グループ

1. 事業活動を通じて持続可能な社会の構築に寄与する
2. お客様のニーズに的確に応える
3. 社員が誇りを持って明るく仕事に取り組む
4. 安定して利益を生み出し社会に還元する

重視する価値 Value

Challenge Fairness Teamwork

さらに視野とアンテナを広げ、その変化を敏感に察知しながら、社会と協力して克服していくことが重要です。こうした考えから、日本製紙(株)は「人権・労働・環境・腐敗防止」について10の原則を掲げる国連グローバル・コンパクトを支持し、参加しています。

一方、従業員には、健康と安全、コンプライアンスを徹底しながら、それぞれの場所で、Challenge、Fairness、Teamworkを合言葉に、能力を発揮してもらいたいと思っています。当社グループは、事業構造を転換しながら新たな価値の創造に挑戦しています。フェアであることは、組織の活力の源泉であり、お客さま、社会から信頼を得るための原点になります。また、目標を共有し、組織や個人がその役割を認識して一丸となって日々の大小さまざまな課題に挑戦することが、持続的な成長につながります。

本報告書では、総合バイオマス企業としての持続可能なビジネスモデルが社会の課題解決、持続的発展と密接に結び付いていること、地域と共生していくために重要なこと、を中心に報告しています。今後もステークホルダーの皆さまのニーズをふまえて持続可能な社会の構築に貢献できるよう努めていきますので、ぜひご一読いただき、多くの率直なご意見をいただくと幸いです。

日本製紙株式会社 代表取締役社長

馬城文雄

